

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	南九州市茶業振興会
役職	
氏名	窪 拓摩
着任日	令和3年2月1日

活動月	令和7年1月(着任4年0ヶ月)
主な活動	1.新茶に向けた人材確保対策説明会第一弾を実施！ 2. 特定地域づくり事業協同組合シンポジウムへの参加 3.地域おこし協力隊情報交換会 / 奉納用新茶づくりスタート

1.新茶に向けた人材確保対策説明会第一弾を実施！



写真: 本年のスローガン「**ONE TEAM**」で進める人材確保説明会

ここ数年、1月末頃開催をしております、茶業関係者向けの人材派遣会社説明会を、本年は、より現場の声を拾い上げ対応できるようにと、半月早い中旬に実施いたしました。当月は、数ヶ月(3月末～概ね6月ごろまで)の雇用を対象とした人材派遣説明会を実施し、次月には、1日数時間～数日の雇用を対象とした短期雇用向けの説明会を実施するなど、日本一の茶産地をサポートする生産対策の意味合いもこめて、当事業を進めております。

わたくしの当初の着任テーマから、今では新たな取り組み内容へと派生してきています。現在「労働力確保」や「関係人口/移住・定住創出」、「観光PR」などの取り組みなど、より結果が求められる取り組みへと変化している中でも、主軸にあるのは変わらず「茶」となっており、それほどまでに、当市は「知覧茶」という素晴らしいブランドを持っていることに他ならず、「お茶だけPRしても」という閉鎖的な思考から、しっかりと向き合うブランディングや体制づくりをしていけたらいいなと日々思っております。

2.特定地域づくり事業協同組合シンポジウムへの参加



写真：鹿児島県内の先行事例紹介@サンロイヤルホテル

定期的に当市の議会でもテーマになっている「特定地域づくり事業共同組合」のシンポジウムに、当月参加いたしました。シンポジウムは2日間おこなわれ、1日目は、事業の概要や鹿児島県内の採用市町村による先行事例を聞いたりするなどがあり、2日目は県内で既に事業を導入されている錦江町の現地視察が開催されました。

当市で、今後当事業を導入する / しないに関わらず、こういった取り組みは労働力確保や移住・定住、関係人口に直結していくことに間違いはなく、いずれにせよ当市の要となる「一次産業」、そして「知覧茶」が、事業者ポジションでのキーとなるのは容易に想定できることから、今回わたくしがシンポジウムに参加しております。

今回のシンポジウムから、「行政・事業者(組合)・事務局」3つのバランスが成り立たないことには、当取り組みの進展がみえてこないように感じます。行政主導では限界があり、事業者の中に事業を牽引するキーパーソン(または企業)が不足すると雇用がまわらず、また事務局がワーカー/事業者をうまくまとめるサポート能力がないと事業そのものが成り立たないという構造が、今回を通してよく理解できました。

地域おこし協力隊活動報告書



写真：錦江町特地事務所にて(左) / 本州最南端のワイナリーにて(右)

加えて、「行政・事業者(組合)・事務局」全てのポジションが自責の念を持ち、匙を投げないようにする仕組みづくりが設立前後で取れているかが非常に重要であり、設立が最終目標でないことを強く認識した上で、当事業に望むべきであると感じます。

3.地域おこし協力隊情報交換会 / 奉納用新茶づくりスタート



写真：南薩4市 / さつま町情報交換会の様子

地域おこし協力隊活動報告書



写真：奉納用新茶のハウスづくりの様子

現在、全国で7,000名以上の地域おこし協力隊が活動をされているなか、なかなか着任自治体の枠を超えて情報交換会などの交流ができていないのが事実です。最近では、当市を含む「南薩エリア」での活動も増えてきており、今回南薩4市に加え、北薩エリアのさつま町から現役協力隊が参加し、情報交換会が実施されました。

確実に協力隊制度の実績は増えているものの、いまだに「地域おこし協力隊＝地域の何でも屋(ボランティア)」の認知が減らないことへの解決方法や、会計年度任用職員としての行政職員の業務と、生業を一つの目標とする個人の活動という、ある種相反するポジションへの理解をどう進めるのかなど、着任したものにしか味わうことのできない悩みがだされ、貴重な会となりました。

正直なところ、ほんの数年前までの市況から今では一変し、協力隊制度における「売り手市場」が続いております。「自然が豊か」「人が温かい」「スローライフ」などの普遍的なフレーズだけでは、期待する協力隊希望者が参入してこないフェーズに突入しており、厳しい意見ながら、魅力ある自治体と、閑古鳥が鳴く自治体とはっきりと別れてきたように感じます。万人受けする受け入れ体制より、届けたい人に届くための施策が試されております。

別件にて、早くも新茶シーズンに向けた安全と繁栄を願うため、奉納用新茶のハウスづくりを実施いたしました。当日は、大粒のあられが降り、ハウスに穴が開くかと思うほどの悪天候ではありませんでしたが、なんとか無事に作業を終えることができました。昨年は、2月に厳しい冷え込みがあり、一部の茶園では新芽がやられ赤芽になるなどの被害が出ており、これから3月まで耐寒性の弱くなるシーズン、気の抜けない日々が続きそうです。記憶に残る素晴らしい年となるよう、微力ながら日々業務に取り組んでいます。

以上、当月の報告といたします。